

# 施策評価シート(令和3年度)

(基本施策の大綱) 1. 快適さを支える生活基盤の向上

(基本施策) (8)自然との共生

(評価担当者)

産業環境部長 富田 真左哉

## ■基本施策が目指す姿

豊かな自然の恵みが、良好に保たれ、次世代に受け継がれています。

## ■関連する分野別計画

第2次亀山市環境基本計画

## ■成果指標

	単位	現状値		実績値					目標値	
				H29	H30	R1	R2	R3		
1	自然公園の利用者数	人	13,717	H27	10,520	8,465	9,154	9,279	13,349	20,000
2	環境林整備面積	ha	1,187	H27	1,382	1,451	1,531	1,581	1,646	1,700
3										
4										
5										

## ■市民アンケート調査

項目	重要度	現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [R2]	市民アンケートの考察
1 自然環境が豊かである	重要度	1.27	1.19	1.21	自然に関する各項目に対する重要度及び満足度の認識は上昇に転じており、市民の意識は依然として高いものと思われる。鈴鹿川等源流域をはじめとする自然環境保全への取組等が評価されたものと推察される。
	満足度	1.03	1.10	1.12	
2 自然環境と調和した開発が適切に行われている	重要度	1.13	0.95	1.05	
	満足度	▲ 0.17	▲ 0.22	▲ 0.18	
3 森林・里山や農地が保全されている	重要度	1.11	0.99	1.07	
	満足度	▲ 0.04	▲ 0.11	▲ 0.01	
4 自然とふれあえる場所や機会が充実している	重要度	1.04	0.90	0.99	
	満足度	0.27	0.25	0.29	
5	重要度				
	満足度				

## ■総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
<b>B</b> まずまず進んだ	鈴鹿川等源流の森林づくり協議会や里山管理運営協議会、事業所など多様な主体と連携・協力し、亀山里山公園や亀山森林公園など自然資源をフィールドとして、市民が自然環境と触れ合う機会や学習の機会を提供することで、多様な生態系の確保と自然環境を保全する意識醸成に寄与している。一方で、成果指標における自然公園の利用者数は、前年度と比較して大幅に増加したものの、目標値とは大きく乖離している。一方、森林・里山・農地の保全については、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会イベントにより、森林保全等の意識醸成を図っている。また、国等の補助金を活用し、事業を着実に実行したことで、多面的機能の維持発揮が図られるとともに、農地、森林の適切な管理、農道・水路の維持管理につながっていると考えられる。また、成果指標における環境林整備面積の実績は、おおそ目標値に達するところまで年々伸びており、基本施策が目指す姿にまずまず近づけることができていると考えられることから、総合判定をBとした。
反省点・課題	
鈴鹿川等源流の森林づくり協議会など市民活動団体と連携・協力し、自然環境と触れ合う機会や学習の機会を提供し、外来種駆除や希少野生動植物の保護・増殖に取り組んでいるものの、「生物多様性」の言葉や考え方、重要性が広く知られていない。また、一部の外来種は地域の自然環境に大きな影響を与え、生態系のバランスを崩し、生物多様性を脅かすなどの問題を引き起こしている。一方、自然公園の利用者数については、自然環境と触れ合う場、環境学習の場として活用し、公園の魅力を様々な媒体を通じて発信しているものの、現状では利用者数が伸び悩んでいる。また、森林の持つ多面的機能を高めるため、森林整備や森林保全意識の醸成等をさらに図る必要がある。一方で農地の持つ多面的機能の維持・発揮を図るため、中山間地域における農業生産活動等の支援により、一定の効果があったものの、市全体では農地保全の取り組みを担う組織の高齢化等により耕作放棄地が増加傾向であり、担い手の維持・確保が求められている。	

## 今後の展開方針

市民が本市の豊かな自然との共生を図るため、引き続き、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会や市民活動団体と連携・協力し、市民が自然とふれあい、生物多様性の恵みを受取る機会を提供することで生物多様性の意識醸成につなげる。また、外来種の問題については、猿対策も含め、先進自治体の取り組みも参考に、更なる効果的な対策を検討する。さらに、自然公園の利用促進を図るため、引き続き、市内幼稚園、保育園、小学校や福祉施設の遠足等による利用を呼び掛けるとともに、環境講座や観察会を開催する。森林整備については、森林経営管理事業並びに森林環境創造事業に引き続き取り組み、整備を進める。また、農地保全については、耕作放棄地の発生防止と農地農村が有する多面的機能を維持・発揮していくため、田園環境保全事業補助金や多面機能支払事業交付金など、各種支援制度の活用を地域に積極的に働きかける。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向① 自然資源の保全						
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できたか】		
A	活動	開発行為を行う事業者に対し、開発区域における緑化の推進や自然環境との調和を保つよう指導するとともに、環境への影響が著しい開発行為については、環境保全審議会を開催し、指導した。 また、「鈴鹿川等源流の森林づくり協議会」が主体となり、自然資源を活用したイベントなど関連事業に取り組んだ。	評価	開発行為を行う事業者に対し、自然資源に影響を及ぼさないよう指導ができています。 一方、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会による活動が、流域における市民の自然資源を保全する意識醸成につながっている。		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17033	みえ森と緑の県民税市町交付金事業	主	5,208 / 5,198	A	B
事業以外	内容				活動	成果

施策の方向② 森林・里山・農地の保全						
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できたか】		
B	活動	中山間等直接支払交付金事業、多面的機能発揮促進事業により農地・農村の持つ多面的機能の維持発揮を図る集落に補助金を交付した。また、環境林の間伐を実施し、森林経営管理事業では小面積ながら間伐を実施することができた。みえ森と緑の県民税市町交付金事業では木育教室等に取り組んだ。	評価	多面的機能発揮促進事業では、令和3年度から新たに1組織が、さらに区切りを迎えた6組織も引き続き事業に取り組むこととなった。これにより農業・農村の持つ多面的機能の発揮促進を図ることができ、農地の保全につなげることができた。また、間伐を実施したことで森林の持つ多面的機能が発揮され森林・里山の保全に努めることができた。		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17030	森林環境創造事業	主	16,956 / 16,850	B	B
	17031	中山間地域等直接支払交付金事業	主	12,955 / 12,940	A	A
	17032	田園環境保全事業	主	3,260 / 2,798	B	B
	17033	みえ森と緑の県民税市町交付金事業	主	5,208 / 5,198	A	B
	17034	多面的機能発揮促進事業	主	15,036 / 15,032	A	A
	19008	森林経営管理事業	主	23,928 / 23,844	B	B
	12008	森林環境整備基金積立金	標	13,963 / 13,925	A	A
事業以外	6019	市単土地改良事業	標	37,800 / 37,778	A	A
	内容				活動	成果

施策の方向③ 自然とのふれあいの機会の創出						
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できたか】		
A	活動	亀山里山公園や亀山森林公園等を活用し、市民活動団体と連携し、里山塾の開講や市内幼稚園・保育園、小学校児童への環境学習を開催した。また、「鈴鹿川等源流の森林づくり協議会」が主体となり、自然体験や環境学習など市民が身近な自然に触れ合い、学ぶ機会を提供した。	評価	亀山里山公園や亀山森林公園を活用した環境学習や、市民活動団体や「鈴鹿川等源流の森林づくり協議会」との連携による自然体験や環境学習など、市民が自然環境に触れる機会を創出できた。		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	4067	里山公園管理費	標	5,740 / 5,285	A	A
事業以外	6055	森林公園管理費	標	3,446 / 3,048	A	A
	内容				活動	成果
職務能力向上や最新の知見収集を目的とした研修等の受講				A	A	

施策の方向④ 多様な生態系の確保							
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できたか】			
B まずまず進んだ	活動	<p>第2次亀山市環境基本計画に内包する形で「生物多様性地域戦略」を策定した。また、市民活動団体等と連携して亀山里山公園等を活用し、希少野生動植物の保護・増殖に取り組んだ。</p> <p>一方、特定外来生物(オオキンケイギク、ブルーギル等)の駆除に取り組む市民や市民団体に必要な資材を提供するなど活動を支援した。</p>		評価	<p>「生物多様性地域戦略」の策定、希少野生動植物の保護・増殖の取り組み、市民、市民団体の特定外来生物の駆除を通して、生物多様性への関心や意識向上には寄与しているが、生物多様性の重要性が広く市民や事業者に浸透していない。</p>		
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	4010	一般事業(環境保全事業)			15,300 / 12,731	A	A
事業以外の取組	内容					活動	成果
	事業者と協働した希少野生動植物の保護活動					A	A